

2. 代表的な活動の事例 –功労者表彰受賞者の活動事例から抜粋–

2. 1 代表的な活動事例

ここでは、令和3年度に顕彰した活動事例のうち、代表的なものとして「建設業社会貢献活動推進月間中央行事」で事例発表された3事例を紹介します。

No.	都道府県	協会・支部・企業名等	活動内容
A5-07	長野県	(一社)長野県建設業協会 青年部会	令和元年度台風19号災害のドキュメント番組の制作及び広報誌「LIFE」の発行
A3-02	大分県	(一社)大分県建設業協会	『建設現場から元気のでるアート!』プロジェクト
B6-01	栃木県	中村土建(株)	女性の定着促進に向けた取り組み

(1) 令和元年度台風19号災害のドキュメント番組の制作及び広報誌「LIFE」の発行 (一社)長野県建設業協会 青年部会)

事例 A5-07 : 長野県

令和元年度台風19号災害のドキュメント番組の制作及び 広報誌「LIFE」の発行 ((一社)長野県建設業協会 青年部会)

長野県建設業協会青年部会は、建設業の担い手確保や業界のイメージアップを目的とし、様々な活動を展開している。ここでは、近年における青年部会の歩みと、今回制作した令和元年度台風19号災害のドキュメント番組、および広報誌「LIFE」第4版の発行について報告する。

■長野県建設業協会青年部会の近年の歩み

2016年3月 若年者入職促進DVD【建設の仕事】を制作

2016年8月 フリー冊子【LIFE】の発刊を決定。デザイン担当は新建新聞社

2017年1月 【LIFE】第1号が完成し、公共施設やカフェなど県内各地で配布

2017年7月 長野県の「次期総合5カ年計画」について提言書を作成

社会基盤整備から観光・まちづくりまで、「信州のこれから」を提案

2017年 HP【長建ヤングマン】スタート

2018年 県建設部との意見交換会を実施。知事も出席し意見を交わした

2019年 長野駅で【土木の日】イベントを県建設部と共同で開催。大盛況となった

2020年 長野高専で動画や【LIFE】を活用しながら意見交換会を実施



長建ヤングマンスタート



県建設部との意見交換会



長野駅での土木の日イベント

■令和元年東日本台風（台風19号）災害

令和元年10月12日、マリアナ諸島の東海上で発生した令和元年東日本台風（台風19号）が日本に上陸。関東地方、甲信地方、東北地方、静岡県等、東日本を中心に甚大な被害をもたらした。長野県下でも千曲川の堤防が決壊するなど河川の氾濫・決壊が相次ぎ、北陸新幹線車両センター等、各地で浸水被害が発生し、多くの住家屋が損壊、23名（うち災害関連死18名）もの尊い命が奪われた。（令和3年6月29日現在）



千曲川堤防が決壊、濁流が一気に住宅地へ



橋台が流され、橋桁が落下

■令和元年度台風19号災害のドキュメント番組の制作

大きな災害でクローズアップされるのは、自衛隊・消防隊の皆さんの救出活動であり、その貢献度は大きいと同様に建設業の従事者も、災害現場の最前線において命懸けで作業にあたっている。

今回、地域建設業に携わる者が、地域住民の皆様のご生命・財産を守る一翼を担うため、災害を予期する段階から災害に備えた活動や、災害発生時には昼夜を問わず懸命な復旧工事を行ったことを、多くの方に知って頂きたいと考え、ドキュメント番組を制作することとした。

番組は、長野県建設業協会の各支部会員による、台風19号接近時及び、被災直後からの応急復旧の活動、さらには本格的な復旧工事をドキュメントにまとめ、地元の民間放送局により、令和2年12月30日に30分番組として放送を行った。

また、番組のDVDを制作し、国・県・市町村などの行政機関や関係団体はもとより、建設業に関心を持っていただくため、県内の中学校・高校に配布した。



昼夜を問わない作業により仮堤防が早期復旧

■ 広報誌「LIFE」の改正版の発行について

青年部会では、若者へ「ものづくり」の魅力を伝えるための広報誌「LIFE」の発行を平成29年から行っており、令和2年度は、先に放送したドキュメント番組とも連動する第4版を発行した。

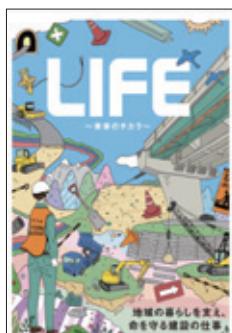
今回の新しい試みとして積極的に活用したのが、動画との連携である。写真の説明文の側に配置したQRコードを読み取ることで、ドキュメント番組で使用した、関連動画や、建物の動画などが見られるよう工夫した。

また、テレビから冊子、冊子からスマートフォン、SNSへとつなげるために新たに企画したのが、県下の若手技術者30名の動画インタビューである。従来の活字で展開するインタビュー記事を、顔写真の右下に配置したQRコードを読み取ることにより、動画インタビューが見られる構成とした。さらに、青年部会のホームページ「長建ヤングマン」や青年部会の公式Instagramへのリンクも掲載した。

広報誌は、県下各地の小中学校や高校、公共施設などに配布するとともに、地元のコンビニエンスストアに協力をお願いし店頭並べていただくことで、多くの方に手にとっていただける取組となった。



コンビニのフリーペーパーコーナーに



広報誌「LIFE」第4版の表紙



災害のページは、ドキュメント番組と連動



若手30人インタビュー

■ 今後について

今回のドキュメンタリー番組の制作及び、広報誌「LIFE」の発行は県の建設部から高い評価をいただくとともに、建設業の担い手確保や建設業のイメージアップの好事例として取り上げていただいた。

これまでの活動の実績により、本会と行政機関との連携は、密接かつ強固なものとなっている。そのつながりは教育委員会や地域の学校へも波及し、中学校からは、職業体験の場でDVDや冊子を使わせていただきたいというお声掛けをいただいた。さっそく校内ハローワークという形式で、第1回目を開催させていただいたところ、好評を得て、他校からも打診をいただいている。

今回のドキュメント番組（DVD）や広報誌LIFEに関しては、制作したことだけで満足するのではなく、より多くの人に建設の仕事を理解いただくためのツールとして今後も積極的に活用し、ひとつでも多くのきっかけ作りに役立てていきたいと考えている。

今後は、3年後、5年後、10年後の建設業の在り方、働き方改革、ICT、DX、カーボンニュートラル（2050ゼロカーボン）など、様々な観点から未来を見据え、今、私たちが成すべきことを模索し、活動に取り組んでいきたいと考えている。

(2) 『建設現場から元気のでるアート!』プロジェクト ((一社) 大分県建設業協会)

事例 A3-02 : 大分県

『建設現場から元気のでるアート!』プロジェクト ((一社) 大分県建設業協会)

本プロジェクトは、大分県内で活躍する障がい者アート団体「元気のでるアート! 実行委員会」との共同事業で、団体所属の作家の作品を、公民問わず協会員の受注した建設工事の工事看板等に掲載し、使用作品数に応じた金額を同団体へ寄付するという取組である。

平成30年度に開催された「第33回国民文化祭おおいた2018」および「第18回全国障害者芸術文化祭大分大会」を機に、障がい者の方のアート作品をご紹介するとともに寄付等の支援を通じて建設業のイメージアップを図ることが目的であり、開始から3年が経過するなか、各方面（受発注者、作家である障がい者の方々やその家族）から感謝のお言葉をいただき、掲示枚数も年々増加している等、社会貢献活動として定着してきたと認識している。

■プロジェクトの概要

本プロジェクトは、障がいを持つ作家の方が制作したアート作品を会員企業各社が受注した建設工事の工事看板や仮囲い等に掲示するという取組で、切り絵や水彩画、PCによるイラストレーション等、作風の異なる様々なジャンルの作品がラインナップされている。

掲載する作品は、障がいと向き合いながらアート作品作りを続けている作家たちの団体「元気のでるアート! 実行委員会」が、データ化も含め一元管理し、本会がそこから毎年100デザインをお借りする形で、ご提供いただいている。



「元気のでるアート!」の作家の作品 左からアマビエ 猫 クリスマス こぶし

■プロジェクトの目的

本プロジェクトのひとつめの目的は、「障がい者アート団体の活動支援」である。この取組により会員企業各社から寄せられた収益金を同団体の活動費用に充てていただくべく、毎年寄付を行っている。

次に「本会及び会員企業のPR」も目的とし、建設業に携わる団体およびその構成員として、地域社会に広く貢献していることを看板の文言などでアピールしている。

その他、大分県主催のイベントや本会も参画する産学官連携組織「おおいた建設人材共育ネットワーク（愛称：BUILD OITA）」のロゴ等を看板に掲載し、県民の皆さまの建設産業への認知度アップも目的としている。

BUILD OITA

BUILD OITA

おおいた建設人材共育ネットワークのロゴ

■プロジェクト発動のきっかけ

本プロジェクトのきっかけとなったのは、平成30年に本県で開催された「第33回国民文化祭・おおいた2018」および「第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」である。同年10月6日から11月25日の50日間で延べ237万人の参加者を集めたイベントは、県内各地で様々な催しが開催された。

大会の開催にあたり、県内の企業・団体と障がい者団体をマッチングする様々な取組が行われ、本プロジェクトもそのひとつとして大分県土木建築部主導で協議を始めた。

「元気のでるアート！実行委員会」が設立時より求めていた“作品の展示機会や展示場所”として本会が持つ“工事看板や仮囲い等”を提供すること、本会が求めていた“社会貢献および業界のイメージアップ”のため同団体の“見ると元気がでるアート作品を現場で使用”させていただくことで、双方Win-Winのマッチングが成立し、協議開始から1か月程で大分県知事立会いのもと協定の締結に至った。

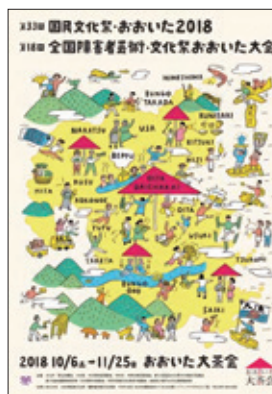
■ありがとうメッセージ

本プロジェクトを続けるうちに、作家ご本人やそのご家族、作家の通う施設や作業所のスタッフ、さらには近隣住民の方々から予想外の反響をいただくようになり、年々そのメッセージが増加している。一部のエピソードは、地元一般紙でも取り上げていただいた。

■今後の課題

今後の課題は、「このプロジェクトを、もっと多くの方に知っていただく」ということである。現在、協会事務局にて本プロジェクトのFacebookアカウントを作成し、作品を掲載した工事看板と作家名および掲載企業名を紹介している。

今後も大分県建設業協会では、『元気のでるアート！』で、現場から地元大分を、そして建設業界を元気にしていきたいと考えている。



「第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」ポスター



プロジェクト調印式



寄付金の贈呈式



建設現場から元気のでるアート！ Facebook



工事現場に設置される「元気のでるアート！」看板

(3) 女性の定着促進に向けた取り組み（中村土建（株））

事例 B6-01：栃木県

女性の建設業定着促進に向けた取り組み（中村土建（株））

建設業界において女性がいきいきと働き、活躍していることをアピールし、女性の採用者数増、離職率低下を目的とし女性職員だけの委員会「女子部」を創設した。専用 Instagram を開設し、委員会の活動、女性職員の日々の業務、社内行事など女性職員の目線から感じたことを投稿し、建設業界で女性が働くことについてのイメージアップに尽力している。

また、毎月開催している安全パトロールとは別に女子パトロールも実施。衛生面やイメージアップの観点に重きを置き、女性目線のパトロールを行っている。これまで男性職員だけの現場運営では気づきにくかった点についての指摘と改善提案があることで、現場のイメージアップにつながっている。また、入社間もない 10、20 代の女性職員にも意見を発信していただき、自身が会社に必要とされていること、会社のプロジェクトに参画していることを実感していただくことで、スキルアップおよび離職率低下につながっている。

■イメージアップ活動のはじまり

入職者数の激減と就労者の高齢化、業界の危機感が高まるなか、平成 26 年より業界のイメージ向上、他社との差別化を図るための取組を開始。2 年後の平成 28 年には、「中村土建ブランドの確立」を打ち出し、マーケティング戦略へと大きく舵をきることとなった。

■建設 LABO × 女子部

イメージアップに関する諸活動において、女性のアイデアや能力が欠かせないことを初期のイメージアップ委員会活動を通して実感。ブランディング戦略の一環として、令和 2 年に「建設 LABO」の名前で商品サイトを立ち上げるとともに女子部を発足した。「現場イメージアップ」「女性ネットワークづくり」「リクルート」「広報」等が主な活動内容となる。



建設 LABO × 女子部 HP

■現場イメージアップ活動

安全担当部門の主導のもと、安全パトロールを行ってきたのとは別に、女子部では、環境面、イメージアップ面での取組みに着目したパトロールを実施。女性の働きやすい環境が整備されているか、建設業のイメージアップにつながる創意工夫はなされているか、などをポイントとして巡視している。イメージアップにおいては、これまで改善提案がなかった点での指摘もあり、一歩進んだ現場づくりのサポートが行われている。



女子パトロール

■ 広報活動・女性ネットワークづくり

女子部の創設にあたり Instagram を開設。令和3年度入社的女性社員から、公式 Instagram をチェックしたとの声が多数あり、Instagram での発信がキーになるとの実感を得た。

また、民間企業の発注者との対談の場を設け、当社を選んでいただいた理由、良かった点などを女性技術者がリサーチ。ある安全担当者が、女性だったこともあり、同じ安全に携わる者として女性のネットワークづくりにもつながっている。インタビュー、撮影、写真の編集、加工、Instagram への投稿まで、一連の広報活動を女子部員で完結させている。



発注者インタビュー



Instagram 投稿記事

■ リクルート活動

地元工業高校からのご依頼で現場見学会を開催する際、同校出身の女性技術者をサポートにつけ採用へとつなげている。この10年で1名だった女性技術者が現在5名となった。

また当社では、企業説明会や会社案内、その他人事関係業務・活動においても女性が携わっており、個別対応の現場見学においては企画、日程の調整、説明資料の作成等の準備から、当日の会社概要説明と各現場への案内まで、ほぼすべてを内勤の女性が担当している。



現場見学会

■ その他の活動

当社ユニフォームの選定委員会に女子部も参画し、デザインの考案から活発に意見している。また女子部では、社で使用する社旗や安全旗、封筒、工事看板等のデザインを考案し統一を図っている。令和3年度新卒新入社員は全員が女性であり、こうしたクリエイティブな活動に新たな視点・意見が取り入れられ、より一層活性化されたことを実感している。



新ユニフォーム考案の様子

■ 今後に向けて

当社のイメージアップに関するこれまでの活動は、入社間もない若手女性社員や裏方を務める内勤の女性社員に前向きな意欲を持ってもらうために非常に有効であると実感した。

会社に必要とされている、会社の重要なプロジェクトに参画している、自分の力が会社を動かしている、このような実感が社員のモチベーションを創造していくと考えている。